

1. 科目名 (単位 数)	司法・犯罪心理学 (2単位)		3. 科目番号	PSMP3359								
2. 授業担当教員	岩月 敦											
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究・同結果のプレゼンテーション、学生との応答。	5. 開講学期	春期									
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	<p>心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、心理学的要因、社会学的要因などから探る。生物学的要因として主にロンブローゾの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付けとの関連等について理解し、心理学的要因としては行為障害や人格（パーソナリティ）障害、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会学的要因としてはアノミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、DV・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに、犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解を深めながら、犯罪心理学という学問あるいは心理職がどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。</p>											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪や非行の原因を生物学的要因、心理学的要因、社会学的要因などから説明することができるようになる。 2 犯罪の動機・原因を犯罪の種類と関連させながら理解し、説明することができるようになる。 3 特に、最近の無差別殺人事件や通り魔殺人事件、あるいはストーカー殺人事件に象徴される現代型犯罪の原因・背景について、受講生自らの事例研究・発表を通し、犯罪心理学の観点から理解し、説明することができるようになる。 4 犯罪・非行にかかる刑事司法機関、処遇機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。 5 犯罪の未然防止や犯罪者の更生・社会復帰の可能性について理解し、説明することができるようになる。 6 犯罪に関係する諸科学、諸理論について理解し、説明することができるようになる。 7 犯罪や非行に関係する職場に就職するための専門的知識を身に付けることができるようになる。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ノートを用意し、各回で事前学習、事後学習として指定されたことを、毎回必ず行う。 2. 事後学習では、授業時間のふり返りと教科書の該当部分の読み返しの双方を必ず行う。 <p>指示された課題、レポート提出は必ず行う。</p>											
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 越智啓太著『Progress & Application 司法犯罪心理学』サイエンス社、2020。 【参考書・教材】 必要に応じて、随時提示する。</p>											
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>				1 授業への積極的参加	総合点の20%	2 期末試験	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の20%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の20%											
2 期末試験	総合点の40%											
3 課題レポート	総合点の20%											
4 日常の学習状況	総合点の20%											
12. 受講生への メッセージ	<p>心理職という形など特殊な場合を除けば、もしかしたら司法・犯罪心理学の学びが直接人生に役に立つということは少ないかもしれませんが、しかし、万一ということ以外でも本授業での学びがどんな形で役に立ち得るかと考えることで、ここでの学びが確実に有用なものとなるでしょう。そのためには、知的な意欲を持って（ほんのわずかでも授業のエッセンスを意図的に使い）授業の内外を過ごすこと（たとえば、これまでより少し多めに社会問題等に意識を向けてみる等）がより有効となります。自身の生きている日常で、周囲や社会の出来事などについて興味や問題意識を持って頭を使うことが習慣になると、有意義な知が蓄積、構築されることにもなります。また、分野も超えて知的好奇心、探求心をますます増加させ、自身の知の発展および、こうした喜びを味わうという喜びの多い好循環の人生を生涯にわたって過ごすことが可能となります。</p> <p>新たな情報・知識の大量獲得よりも、以下の学びのプロセスをたどることを第一義とする姿勢を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) まずは自分の頭で、その時点での自身の知を抽出、可能な範囲で整理する。 (きれいにまとめられるとは限りません) 2) 自身の無自覚な思い込み、思考の枠組み等も含めて、抽出した自身の知に挑むという姿勢で吟味する。 3) 必要に応じて新たな情報・知識も含めて、上記の姿勢でさらに吟味し、整理、概念化する。 <p>これらを授業内での他者との相互作用という点で考えると、以下のように表現することもできます。</p> <p>ア) 自分の考え（意見）を言語化し、伝える。</p> <p>イ) <u>心を開いて、頭を使って、他者（教員・他の学生）の話、やり取りに耳を傾ける。質問をする。</u> (自分の問題としても関与する)</p> <p>ウ) 他者の話や会話に声を出した形で参加していない時も、頭の中では常に参加する。頭と心を使う。</p> <p>エ) 必要に応じて、自分の考えの変化を言語化し、伝える。</p>											
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第1回	オリエンテーションー受講契約と導入	事前学習	印象的な犯罪をひとつ挙げ、司法・犯罪心理学の自分なりのイメージと、授業への期待について言語化、記述する。									
		事後学習	個人又はグループで発表する犯罪事例について調査・研究・取りまとめの計画を立てる。									

第2回	犯罪とBPS (B) —犯罪の生物学的原因論 (教科書：第1章)	事前学習	犯罪とその原因について、自分なりのイメージを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、犯罪の原因に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第3回	犯罪とBPS (P) —犯罪の心理学的原因論 (教科書：第2章)	事前学習	心理職が犯罪の原因を考えることが、どのような意味を持つのか自分なりに言語化する。
		事後学習	授業をふり返り、犯罪の原因に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第4回	犯罪とBPS (S) —犯罪の社会学的原因論 (教科書：第3章)	事前学習	犯罪の原因をどう考えることが、心理師が社会で有用な存在となるのか言語化する。
		事後学習	授業をふり返り、犯罪の原因に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第5回	おもな犯罪とその特徴 (1) 暴力犯罪 (教科書：第4章)	事前学習	暴力犯罪について自分なりのイメージを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、暴力犯罪に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第6回	おもな犯罪とその特徴 (2) 性犯罪 (教科書：第5章)	事前学習	性犯罪について自分なりのイメージを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、性犯罪に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第7回	おもな犯罪とその特徴 (3) DV、ストーキング、虐待 (教科書：第6章)	事前学習	DV、ストーキング、虐待について自分なりのイメージを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当の犯罪に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第8回	おもな犯罪とその特徴 (4) 窃盗、強盗、放火 (教科書：第7章)	事前学習	窃盗、強盗、放火について自分なりのイメージを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当の犯罪に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第9回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表の準備と討論 (ディスカッション) のための情報収集その他の準備。
		事後学習	事例発表や討論などをふり返り、自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する
第10回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表の準備と討論 (ディスカッション) のための情報収集その他の準備。
		事後学習	事例発表や討論などをふり返り、自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する
第11回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表の準備と討論 (ディスカッション) のための情報収集その他の準備。
		事後学習	事例発表や討論などをふり返り、自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する
第12回	犯罪捜査、防犯 (教科書：第8章、第10章)	事前学習	犯罪捜査、防犯それぞれについて自分なりのイメージを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、該当の部分に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第13回	司法・裁判 (教科書：第9章)	事前学習	裁判、裁判所などについて自分なりのイメージを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、司法・裁判に関して自身の考えがどう変化したのか言語化、記述する。
第14回	矯正・更生保護 (教科書：第11章)	事前学習	非行少年、犯罪者の更生、社会復帰について自分なりのイメージを言語化、記述する。
		事後学習	授業をふり返り、矯正・社会復帰に関して自身の考えの変化を言語化、記述する。
第15回	ふり返りとまとめ	事前学習	これまでのノートすべてをふり返り、自身の変化などを踏まえて学びや感想を記述する。
		事後学習	授業をふり返り、今後に向けた自身の課題意識について言語化し、記述する。
期末試験			